



UIFA ニュース

発行 宇治市国際親善協会

事務局 〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書広報課内
電話 0774-22-3141 (内線2058) FAX 20-8776
ホームページ <http://uifa.news.coocan.jp>

第 74 号

平成28年(2016年)1月

カムループス市 公式訪問団来宇

2015年10月15日▶19日

宇治市の友好都市カナダ・カムループス市から、ピーター・ミロバー市長を団長とする公式訪問団17人が、10月15日(木)から19日(月)までの日程で来訪されました。

今回の訪問団には、実務上の最高責任者である、デイヴィッド・トラウィン筆頭執行職員が就任以来初の参加、さらに、前回に引き続き、父親が友好都市盟約調印時(1990年7月)の立役者である、ジェラルド・ワトソン氏が9歳の娘さんと共に来訪し、「宇治市との交流が3世代に渡る」と、両市の友好都市盟約締結が25周年を迎えることを祝いました。

訪問団一行は、宇治市役所や市内各公共施設を視察され、南部小学校では、児童による組体操や英語学習の見学、給食を楽しみ、カムループス市のトンブソン・リバーズ大学にて語学研修を実施されたご縁で、立命館宇治高等学校を訪問されました。「炭山窯元まつり」や「ミュージック・フェスティバル」を見学、「京都文教大学体育祭」では一部競技を学生たちと共に楽しみました。市長夫妻が平安装束で参加した「宇治田楽まつり」は、団員も船撒きをして参加するなど、市内で開催されたイベントで多くの市民と交流し、友好を深めていただきました。さらに、(公社)宇治市観光協会、宇治国際交流クラブ、宇治市国際親善協会共催の「市民交流歓迎会」や澤木鶴匠による「鵜飼セミナー」、宇治市内の旅館に2泊していただくなど、今までの訪問以上に、宇治市の魅力を堪能していただくことができました。

そして、恒例となった日本家庭の雰囲気味わっていただく「ホーム・ビジット」では、山本正宇治市長、石田正博宇治市議会議長にもご参加いただき、訪問団員を自宅に歓迎、25周年記念の祝賀を盛り上げていただきました。



市役所を表敬訪問



南部小学校にて児童たちと交流



炭山窯元まつりにて工房見学



澤木鶴匠による鵜飼セミナー



宇治田楽まつり出演者と



植物公園にて



京都文教大学にて体育祭に参加

「カナダ・カムループス市から公式訪問団を迎えて

宇治市国際親善協会理事 伊勢村 紀久子

2年ごとにお互いが行ったり来たりするカムループス市公式訪問団が、10月15日から19日まで宇治市を訪問されました。今年は、友好都市盟約締結25周年の年で、ピーター・ミロバー市長を含む17名の団員がさらに交流を深めるために来られました。15日の朝、京都新阪急ホテルまでお出迎えをし、そのあと清水寺、昼食、金閣寺を観光され、3時半には宇治市生涯学習センターに到着されました。4時からの「市民交流歓迎会」は、今年は（公社）宇治市観光協会、宇治国際交流クラブ、宇治市国際親善協会の3団体による共催で、25周年を記念して多様な文化紹介をし、心のこもったおもてなし歓迎交流会となりました。

まずは、ロビーで来年から販売予定の「碾玉」で一休みをしてもらってから、第一ホールで大正琴グループ「ミント」によるカナダ国歌、続いて日本国歌の演奏で、遠くからのお客様を歓迎いたしました。（写真は歓迎会の模様です。）

久保田会長の歓迎挨拶を皮切りに、軽やかな大正琴の音色をバックに着物の着付け、茶道、華道のデモンストレーションがあり、そのあとに今年は珍しい「南京玉簪」のパフォーマンスと体験があり、カナダの人々の上手な手さばきには、皆さんが感心したことでした。しかし何といても、今年の歓迎会のハイライトは、参加者全員で踊った「茶音頭」でした。宇治国際交流クラブ員の熱心な指導のもと、みんながクラブからのお土産の手拭いを被り茶音頭を踊っておおいに盛り上がりしました。そのあとは恒例の全員集合写真を撮り、お腹を満たしに第2ホールへと移動、夕食をしながらのお喋り交流となりました。最後に全団員が、一言ずつ交流歓迎会についての感激の感想を述べ、お開きとなりました。翌朝は、庁舎ロビーでの歓迎式典、市長への表敬訪問、議場見学、南部小学校、立命館宇治高等学校への訪問、夜は宇治市主催の歓迎晩餐会と忙しい一日が続きました。

訪問3日目は、朝から炭山窯元まつりに参加、獅子舞を見て驚き、午後は鵜飼セミナーで鵜について学習され、夕方からは宇治田楽まつりに参加となりました。今回は宇治田楽まつりの開催日に宇治市を訪問されましたので、ミロバー市長夫妻も一役買い、特注の雅な衣装をまとっての参加となりました。フィナーレでは全団員が飴撒きに参加、特別な体験に興奮されていました。その夜は日本旅館に滞在したいという彼らの希望で、一番日本的ともいえる「亀石楼」に宿泊されましたが、ここでもまたたくさんの驚きがあったことでしょう。

翌日は宇治市内を観光、途中文化センターで実施中の音楽連盟主催のミュージックフェスティバルにも顔を出してエールを送り、午後からは京都文教大学を訪問、ちょうど開催中の学生体育祭でタグ玉入れに参加、学生たちと大いに盛り上がっておられました。夜は日本家庭の雰囲気を感じていただくホームビジット、美味しい家庭料理を味わいながら交流されました。今年のホームビジットでは、宇治国際交流クラブ員の家庭だけではなく、山本宇治市長、石田宇治市議会議長、元宇治市議会議員の池内氏がホームビジットを引き受けられましたが、このことは友好都市盟約締結25周年の記念となる大きな出来事だったと思います。

翌朝は、伏見稲荷大社を観光の後、関空から一路カナダへと帰国されました。



日本文化を体験



集合写真



冷たい「碾玉」でお出迎え



大正琴のカナダ国歌演奏



皆で茶音頭

カムループスフェア

宇治市国際親善協会では、カムループス市公式訪問団来訪を記念し、宇治市役所の食堂と協賛し、「カナダ・カムループス・スペシャル・ランチ」を来訪期間中の2日間、提供しました。和風サーモンフライドッグ、パリパリチーズサラダ、ごろっとポテトのビーンズカレーのセットメニューで、両日とも完売する人気ぶりでした。また、同期間、市役所1階ロビーでカムループス市から写真の提供を受けた「カムループス市・宇治市写真展」も開催し、歓迎ムードを高めました。

夏の思い出

木幡中学校 3年 濱田 望 希

私のカムループス市訪問は宇治市の市役所から始まっていました。

私は今回班長になり、出発式で挨拶をさせて頂きました。あんなに大勢の方の前で喋ることは初めての経験だったので前日の夜から緊張していました。でも、いざ本番になると「これからカナダに行くんだ」という楽しみな気持ちの方が大きく全然緊張しませんでした。そして挨拶を終えて飛行機に乗りカナダに向かいました。

初めの2日間は観光でした。カナディアンロッキーを見たり、バンフを訪れ買い物をしたり、ご飯を食べたり、氷河の上を歩いたり、色々な体験をしました。

また、その体験の中で英語に触れ、聞くことにより耳が少しずつですが慣れていきました。私は全く英語が喋れないので、ホームステイで大丈夫か心配でしたが、この2日間で聞く練習もできたのでよかったです。

4日目の朝、カムループスに向かいました。カムループスの空港でホームステイ先のホストマザーの Kathy さんと Emma が迎えに来てくれ、優しく声をかけてくれたので緊張がほぐれました。Kathy さんと Emma はゆっくり話してくれてるので英語が全然できない私でも分かることができました。

家に着くと Emma がカムループス市を紹介してくれました。一緒に歩くうちに、「Emma に自分から話しかけたい」と思うようになり、勇気を出して話すと、とても明るい笑顔で返してくれて少しですが話が続けられました。とても嬉しかったです。その時の気持ちは今でも忘れません。

その後は、卓球をして遊んだり、映画をみたり、アイスクリームを食べに連れて行ってくださったりと、とても楽しかったです。その中で話していくうちに、だんだんと慣れていきました。訪問団の人にありがとうと言う時

「Thank you」と言いそうになるぐらいでした。全然喋れなかったのに短い時間で、カナダの生活に慣れたことにびっくりしました。

最後の夜には、Emma とゆういちゃんと一緒にボードゲームをしたり花火をしたりしました。ボードゲームは Emma に2回も負けましたがとても楽しかったです。

そしてお別れの時、Emma はカナダのお菓子やボールペン、手紙などをくれました。手紙は私自身の一番のお土産です。

今回の研修旅行で学んだこと、経験したことがいっぱいありました。英語だけではなく、両親がいない中で、自分の身の回りをきちんとすることの大変さなど、生活面でも成長できました。

そして、自分の英語力の不甲斐なさにも実感することができました。今回の研修旅行を糧としこれからもっともっと英語を勉強したいと思います。



語学講座

宇治市親善協会が国際交流事業として長年続けている語学講座を今年度も実施しました。

英語は今まで初級と中級の2クラスでしたが、今回は新たに子供対象のクラスを作りました。高学年と低学年にわかれて勉強し、各クラス40分。昨今は、小学校高学年から英語授業も始まっています。しかし少人数で、ネイティブの先生と英語を勉強するチャンスが少ないのが実情です。そして保護者にも英語教育に熱心な人が多いので、毎回送り迎えが必要ですので、保護者がロビーで待たれる姿も見受けられ、例年とはかなり違った雰囲気でした。



大人の英会話クラスは、ホームステイを受けた時に必要な英語を学ぶというトピックスを決

めた初級英会話でしたが、いざクラスが始まるとそれに縛られない自由で幅広い授業となりました。

もう1つのクラスは、韓国語です。高校生から熟年までの幅広い年齢層で全員が女性というクラスとなりました。昨年に引き続き講師を務めて下さったミジョン先生は、8回の授業で韓国語の文字と発音を厳しく教えて下さいました。毎回毎回発音ばかりなのに休む人はほとんどなく熱心に学びました。皆、新しい言葉に魅せられ、いつか韓国映画を原語で見たいという大きな希望をもって勉強をしました。こうして始められた外国語、これからも楽しんで勉強していつか下さることを期待しています。(H.K)



おばさんの留学！カムループス！

平成27年度市民留学生 大 木 裕 子

「バタバタバタバタ…」と座席の下から響きわたるプロペラの音に若干の不安を抱きながら、大都会のバンクーバーから小型機に乗り換えて、カムループスへ向かいました。

子育てや親の介護も数年前に終わり、残りの時間を自分のために使おうと決意して、留学の機会を探していました。そんな中で幸運にも与えていただいたカムループス留学。大きな期待と少しの不安を胸にカムループス空港に降り立ちました。予想以上に小さなカムループス空港には、トンプソン・リバーズ大学の職員の方とこれからお世話になるホームステイ先のベティーさんが待っていてくださいました。満面の笑みのベティーさんと今までの人生で初めてと言ってもいいくらい慣れていないハグをして、車でお家へ向かいました。

70代後半のベティーさんは、愛犬と一緒にマンションに独り暮らし。体調を崩されることも多かったのですが、毎日野菜いっぱいのお食事を作ってください、「内陸のカムループスでは、魚は高くてなかなか買えないのよ。」と言いつつ、日本人の私のために二週に一度は魚料理を出して下さいました。そして毎日お弁当まで持たせていただきました。移民の国カナダとはいえ、年々増えつつける移民に対する複雑な心境や医療・年金制度、物価に対する不満など、生のカナダ人の率直な意見をベティーさんから色々な場面で聞くことができました。そして、最後には必ず「でも、私はカナダを愛しているのよ。」というベティーさんの言葉に、にっこり頷きあったものです。また、街中でも気さくに声をかけ合う国民性や横断しようとする人がいたら100%止まってくれるドライバーなど、日本でも真似すべきだと思うこともたくさんありました。



一方、環境の面では、美しい自然に囲まれたカナダのイメージとは違って、ゴミの分別がまだまだ不十分で、宇治市の方がよほど進んでいると実感することもありました。



毎日通ったトンプソン・リバーズ大学では、5つの講座を取りました。大学ですので当然ながらほとんどが20代の若者たちです。そんな中にこんなおばさんが入って大丈夫かと心配しましたが、彼らは全く年齢のことなど何の問題にもならない、というようにいつも声をかけてくれました。ペアでしなければならないプレゼンテーションや調査などがいくつもありましたが、インドやパキスタンから来た男の子、サウジアラビアの女の子などが「裕子、一緒にペアを組もう。」と誘ってくれ、互いに訛りの強い英語で意思の疎通に苦労しながらもなんとか仕上げることができました。ペアを組んだインド人青年とは母国での生活やこれからの夢についても語り合いました。彼女の写真も見せてくれました。サウジアラビア人女性の同級生からは、彼女のアパートに招待してもらったこともありました。

このカムループスでの4ヶ月は、本当に充実したものになりました。大学の宿題は思いの外たくさんあり、空き時間には図書館に通い詰めてよく勉強もしました。一方、その合間をぬって、宇治市から遊びに来てくれた友達とカナディアンロッキーまで旅行に行ったり、学期終了後には東部のプリンスエドワード島やトロントまで一人旅をしたりと、実りの多い時間を過ごすことが出来ました。

これからもこの経験を生かして、自分の年齢にとらわれることなく、好奇心を忘れずに残りの人生を歩んでいきたいと思います。この留学の機会を与えてくださった方々に心から感謝します。ありがとうございました。

トンプソン・リバーズ大学市民留学生報告

平成27年度市民留学生 村 瀬 葉 月

私が留学へ行きたいと強く思ったきっかけは17歳の時にオーストラリアへ修学旅行として行きホームステイを体験したことです。

更に長期間海外へ勉強に行きたい、異文化の家庭で過ごしたい、様々な想いがありました。そんな時、市政だよりに掲載されていたカムループス市への留学を両親が見つかり、私に勧めてくれました。その時まで友好都市であることも知りませんでした。応募する上で友好都市になった経緯など調べ自分なりに勉強しました。もちろんたくさん不安はありましたが、まさか自分が推薦してもらえるなど夢にも思っていませんでした。

夢が叶って、カナダ行きへの飛行機に乗るとアナウンスは英語でした。その時の私は何も聞き取れず周りの様子を見て動くことしかできませんでした。正直、とても悔しかったです。帰りの飛行機では絶対に聞き取って理解したいと決めた瞬間でした。

最初に受け入れてくださったホストファミリーのご家庭の事情により、途中で別のホストファミリーへ移ることになりましたが、一度の留学で2つの家庭で過ごせたことはとても貴重な体験だったと思っています。食事の仕方やマナーそして、食べるものなどが日本とは異なり毎日新しい発見がありました。学校では教えてくれない現地では当たり前の言い回しなど、たくさん教えてもらうことができ、今、日常生活で活用できているように思います。

将来またカナダへ行く機会があればホストファミリーを訪ね、改めてたくさんお礼を言いたいです。



TRU で過ごした約4ヶ月間は想像よりはるかに充実したものでした。たくさんの人たちと出会い、たくさんお話ができたことで英語力が伸びたのでは

ないかと思っています。

授業でいろんな国の文化に触れ、日本の文化の美しさや感性の豊かさを改めて感じ、将来それらを伝えていける人になりたいと自らの夢を持つことができました。

休日にはBanffやVictoriaへバスやホテルを自ら予約し旅行をしました。不安より新しいところへ行くという好奇心や期待感のほうが大きかったです。国立公園や庭園をみたり、水上飛行機やゴンドラに乗ったりなど初めて経験することが多く、楽しく過ごすことができました。1人で行動していたためたくさんの人に声をかけ写真を撮ってもらったり、声をかけてもらったりする中で、話が盛り上がって一緒にご飯も行くということもありました。

1人で留学し、1人で行動し、経験したことは、私にとってかけがえのないものです。

今回の留学を通してたくさんのことを学ぶことができ、そして少しでも宇治の文化、日本の文化をカムループスの人たちに伝えられたのではないかとと思っています。

宇治市にまたカムループスから訪問された際には私がカムループスで温かく迎えていただいたように来てくださった方々を温かく迎え、おもてなしができたと思います。



宇治市日本中国友好協会40周年を迎えて

宇治市日本中国友好協会が、1973年に京都府日中友好協会宇治支部として発足し、40有余年の歳月が流れました。遅ればせながらになりましたが、昨年の5月30日に、40周年記念式典を隠元禅師が創建されました黄檗山萬福寺にて開催いたしました。



式典を前に、中国からの帰国生徒が多く在籍する南宇治中学校の、中国文化拳術部部員23人が、本堂前の月台を舞台に武術太極拳の演武を披露しました。

その後、黄龍閣別館にて記念式典を開催、劉馳駐大阪中国総領事館総領事アタッシュ夫妻を始め、山本正宇治市長、国会議員、府会議員、市会議員、府日中会長並びに理事長他、各種団体幹部の皆さまなど、多数のご来賓をお迎えいたしました。

ご来賓の方々のお祝辞には、多数の中国人観光客の来日や、大久保小学校の児童と咸陽市の小学校の児童との間に始まった文通に触れるなど、これからの日中両国には、民・民の交流が特に大切であるとの言葉が多くありました。

また、黄檗宗管長であります近藤博道猊下にもご挨拶を頂き、最後になりましたが、多年にわたって協会の運営に尽力されました、上林名誉会長にその功労を称え花束が贈呈されました。



「日本語支援ボランティア養成講座を終了して」

今年度は、宇治市国際親善協会と(公財)京都府国際センターの共催事業として、「日本語支援ボランティア養成講座」を9月4日から11月27日まで3か月間、全12講座で開催しました。昨年度は定員20名のところ、たくさんの受講希望者があり、定員を越える25名での開催でした。そのことも踏まえて、今年度は定員を40名に増やしました。その受講者のうち既に7～



8名が現在宇治市内の日本語ボランティア教室を見学、見習い、活動中です。嬉しいことに新しい年になったら活動を開始したいという声もたくさん聞いています。

第1講目は、府国際センター事業課長の近藤氏より、基礎知識として「日本語教育の現状と京都府国際センターの取り組み」を話していただきました。さまざまな国からの留学生や労働研修生、また日本人との結婚で多くの外国人の方々が近辺に在住される社会背景を理解し、受講者の皆さんには、ますます日本語支援の活動が必要になると感じられたに違いありません。

昨年度の講座内容と少し違うところは、災害時の外国人支援のための講座を設けたことです。最後の2講座を、KYOTO JAPANESE RINGS (京都日本語リングス) のネットワークに所属されている「やさしい日本語」有志の会から講師を派遣してもらいました。

また、第11講目の前半は、宇治市の危機管理課職員から宇治市の防災・災害についての基本的な講義を受け、その後「やさしい日本語」有志の会の講師の指導のもとに、災害時のさまざまな日本語表現についてワークショップ形式で学びました。誰もがパニック状態になる災害時に、日本語の理解が未だ十分でない外国人に対して、やさしい日本語を駆使し、各自で身を守る行動をとってもらう、そのために私たちボランティアがするべき役割は…、という授業をしてもらいました。そして3か月間の学習の結果、32名の受講者が講座終了書を受け取られました。

また災害時の外国人支援についての学習の延長上として、12月7日には宇治市国際親善協会の運営部会のメンバーと、宇治国際交流クラブの日本語教室のメンバーが、京丹後市峰山庁舎で実施された「災害時多言語情報センター設置・運営訓練」に参加、眼から鱗が落ちるような様々な必要事項を学びました。



今後宇治近隣で大きな災害が起こるようなことがあっても、日本人外国人の区別なく、みんなが助け合い共生できる地域社会を形成することを目標にネットワークを広げる努力をする、来年度の宇治市国際親善協会が果たすべき役割が具体的に見えた学習でした。(K.I.)

雑観雑感

過日、縁あって宇治市国際親善協会運営部会の一員として席を置かせて頂く事になりましたが、浅学菲才の身では果たしてお役が務まるものかと不安を感じております。

先輩諸兄のご指導を宜しくお願い致します。

さて、カナダ カムループス市公式訪問団の宇治市への来訪は私にとって初めての公式行事となりましたが、カムループス市とは友好都市として25年の歴史があると聞くから宇治市にとっては古き良き友の来訪です。互いに機会あるごとに交流を深め合っておられる事は承知しておりましたが、新米役員にとっては何事も初めての事で快く歓迎したいと緊張しきりです。

若いころには海外旅行も幾度か経験しましたが、言葉は何時も通訳さん任せで語学は全く駄目である。

こんな事なら少しは語学も勉強しておくべきだったと反省するがもう手遅れ。

いよいよ親善交流が始まり只々、満面の笑みと固い握手とスキンシップで精いっぱいのおもてなしでしたが共に意は通じた様でした。

「ようこそ宇治市にお出で頂きました」と迎えれば「今度はカナダに来て下さい」との返礼を受けたものの十分お役目を果たせたかどうかは気に掛かるところです。(S.Y)